

【情報公開文書】

2023 年 5 月 29 日作成

Ver.1.4

研究課題名	長崎大学病院における表在型食道癌に対する内視鏡治療(粘膜下層剥離術・光線力学療法)を中心とした集学的治療後の長期予後についての検討
所属(診療科等)	長崎大学病院 消化器内科 光学医療診療部
研究責任者	山口直之
研究機関	この研究は長崎大学病院 消化器内科のみで実施します
研究期間	長崎大学病院長許可日～2030 年 1 月 31 日
研究目的と意義	食道表在癌に対しては現在内視鏡治療が第一選択となっており、当院においても 2007 年より食道粘膜下層剥離術(食道 ESD)を施行し、良好な成績を得ています。さらに内視鏡治療適応外の病変(粘膜下層浸潤をきたす病変)に対して、外科切除や化学放射線療法(CRT)に加え、局所切除可能な病変に対しては食道 ESD を施行した後に追加 CRT を行うことも治療選択肢としています。さらに CRT 後の局所遺残/再発病変に対しては追加内視鏡治療(サルベージ内視鏡治療と言います)を実践しています。本研究では、当院におけるこれまでの食道 ESD 症例、追加治療(CRT・外科切除)を行った症例の治療成績(治癒切除率、再発率)ならびに長期予後を調査します。また CRT 後局所遺残/再発病変に対するサルベージ内視鏡治療後の長期予後を評価し、食道癌治療の新たなオプションとしての可能性を検討します。 今後、このような低侵襲な内視鏡治療の需要は今後一層増すことが予想されるため、本研究により内視鏡治療が高齢者を含む全ての方においても安全で有効な治療法であることを示す必要があると考えており、年齢層別解析も行い高齢者に対する内視鏡治療の有効性(治癒切除率、再発率、長期予後)・安全性(治療合併症率など)も評価します。
研究内容	●対象となる患者さん 長崎大学病院消化器内科で 2007 年 1 月 1 日～2019 年 7 月 31 日までに当院で表在型食道癌の診断を受けた方で A～C のいずれかに該当する患者 A.食道 ESD を施行され病理診断の結果治癒切除であった方 B.食道 ESD 施行され病理診断の非治癒切除例と診断され追加治療(CRT、外科治療)を行った方 C.術前診断において内視鏡治療適応外と診断され、CRT を施行された後に局所再発を認めた方(サルベージ内視鏡治療を行った患者を含む) ●利用する情報 病歴(年齢、性別)、内視鏡所見、病理所見、治療経過など。本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。

	●研究の概要・方法 本研究は既存の情報を用いる観察研究のため、新たな試料採取・情報収集は行いません。 対象となった症例について、診療録より上記の情報を集計し、治療成績・治療経過の解析を行います。また、65歳未満の非高齢者、65～74歳の前期高齢者、75歳以上の後期高齢者に層別化し、合併症発現率の比較や長期予後の比較検討を行います。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：山口直之（医師） 長崎大学病院 消化器内科 住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7481 FAX 095（819）7482 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間 ：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）